

中札内村

令和8年度

保存版

防災ガイドマップ

避難所一覧									
施設名	所在地	電話番号	対象地区	避難場所 避難所の区分	災害への対応力				
					洪水 内水	地震	土砂 災害	大規模 火事	
中札内村児童館	東2条南1丁目2	68-3472	興和、共栄、新生、協和、 元大正、興農区、北1区、 南1区、2区、3区、4区、 5区、6区、泉区、 ひばりヶ丘、めぐみ区、 ときわ野、栄、常盤、 南常盤						
鉄道記念公園	東2条南4丁目	-							
中札内中央公園	西2条南2丁目	-							
中札内村老人保健福祉センター ※要支援者優先	西2条南2丁目2	67-2321							
中札内中学校	東1条南5丁目24	67-2020							
中札内小学校	東1条南7丁目2	67-2010							
中札内村民体育館	東1条南2丁目18	67-2422							
中札内交流の杜	東4条北1丁目1	67-2068							
中札内文化創造センター	東4条南6丁目1-3	67-2929							
中札内高等養護学校グラウンド	東5条南1丁目	-							
道の駅なかさつない	大通南7丁目14	67-2811	上札内、元札内、 新札内南、西札内、 元更別、南札内						
中札内村商工会館	大通南2丁目24	67-2204							
農村環境改善センター	大通南2丁目1	67-2250							
上札内小学校	上札内134	69-4171							
上札内交流館	上札内133	69-4338	東戸路1、東戸路2、 中戸路、西戸路、新札内						
中島農業センター	東戸路東5線165-1	68-3817							
特別養護老人ホーム 中札内恵寿美ハイソ	西2条南4丁目	68-3339							
※介護を必要とする人									

防災に関するお問い合わせ先 中札内村役場 TEL (0155) 67-2311

防災情報

防災情報の取得

雨量・水位に関すること	避難情報・河川情報・気象情報に関すること	北海道土砂災害 警戒情報システム	中札内村の防災に関すること
川の防災情報 https://www.river.go.jp/	北海道防災ポータル https://www.bousai-hokkaido.jp/	https://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/	中札内村ホームページ https://www.vill.nakatsunai.hokkaido.jp/

防災行政無線・LINE・メール配信

緊急の場合、防災行政無線や広報車が村内を回り、災害情報を提供します。状況によっては、広報車が回ることができなかったり、みなさんの家の近くまでいけない場合もあります。ご心配な場合は、区長さんやご近所と連絡をとりあってください。

※防災行政無線で放送した内容をLINE・メール配信しています。放送を聞き逃した場合にも、LINE・メール登録することで、内容の確認ができますので登録ください。

スマートフォンで 簡単登録！	QRコードを読み、空メールを送信。返信されたメールに従い登録すると「防災情報」などがメール配信されます。 下記URLからも登録が可能です。 https://plus.sugumail.com/usr/nakasatsunai/home		
-------------------	---	--	--

気象庁ホームページ「キキクル」について

大雨・洪水警報の危険度分布「キキクル」は、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができます。気象情報で注意報や警報が発表されるなど、大雨による災害が発生するおそれのあるときや、急に激しい雨が降ったときは、「キキクル」にアクセスすると、最新の情報を入手できます。



災害用伝言サービス

● 災害用伝言ダイヤル「171」 ●

※録音は30秒以内。伝言保存期間は48時間。

地震などの大きな災害が起きると、多くの方が一斉に電話をかけて家族や知人などに連絡をとるため、電話がつながりにくい状況になります。そんな時に役立つサービスが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」です。

伝言の録音方法

171

にダイヤルする

録音の場合

1

自宅の電話番号
(市外局番から)

録音

伝言の再生方法

171

にダイヤルする

再生の場合

2

被災した方の電話番号
(市外局番から)

再生

※詳しい内容は NTT 東日本のホームページでご確認ください。

ホームページ

https://www.ntt-east.co.jp/saigai/

● 携帯電話各社の災害用伝言板 ●

携帯電話会社では、大きな災害が発生した場合に、各社携帯電話のネット上に「災害用伝言板」が緊急開設されます。緊急時に備え、事前に使用方法を確認しておきましょう。

防災情報

避難情報の種類

警戒レベル 1 で避難のタイミングをお伝えします

「警戒レベル」を用いた避難情報が発令されるようになりました。中札内村から「警戒レベル3、4」が発令された地区にお住まいの方は速やかに避難してください。



避難所の種類

避難所開設について

災害時に全ての避難所が開設されるとは限りません。

●地震の場合は建物の安全性を確認して開所を判断します。

●洪水の場合は避難対象地域に応じて避難所を開所します。

開設する避難所については、防災無線・テレビ・ラジオ・防災メールや広報車など複数の手段でお知らせします。

指定緊急避難場所	福祉避難所
災害の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所です。	福祉避難所は、高齢者、障がいのある方、乳幼児などの要配慮者が滞在し、助言などの支援が受けられる施設です。中札内村が開設の必要性を判断し、開設することとなりますが、緊急時は、まずは近くに開設された指定避難所に移動し、障がいなどの情報をお伝えください。
指定避難所兼指定緊急避難場所 災害発生時、または発生するおそれがある時に災害から命を守るために逃げ込む「指定緊急避難場所」と、その後一定期間滞在して避難生活を送る「指定避難所」の両方の機能を備えた施設です。	※「福祉避難所」利用対象者 高齢者や障がい者、妊産婦や乳幼児、病弱者など、避難所生活に特別な配慮を必要とする方とその家族・介助者。

ペットを連れての避難について

避難の指示があった時には、動物を連れて避難しましょう!

災害時は人も動物も興奮していますから、普段と違った行動を取ることも考えられます。リードは放さないようにしっかり持ち、キャリーバッグやケージはしっかり抱えて動物の安全に気を配りましょう。避難所では、

動物の世話やフードの確保、飼養場所の管理は飼主の責任の下に行うこととなります。衛生的な飼養管理を行うことはもちろん、周りの人に配慮したルールを作り、飼主同士が協力して助け合いましょう。



防災情報

『非常持出品』&『備蓄品』チェックリスト

非常持出品 災害時にすぐに持ち出せるように、準備しておきましょう。

必需品	携帯ラジオ	予備電池	飲料水	非常食
懐中電灯			(1人1日3リットル目安)	
タオル・毛布	衣類・下着類	感染症対策用品	貴重品	お薬・救急セット
				(お薬手帳も忘れずに!)

備蓄品 最低3日分の準備をしておきましょう。(できれば7日分の備蓄を心がけましょう)

燃料	非常食品	必要に応じて準備しましょう
卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料	お米(レトルト・アルファ米も便利) 缶詰・レトルト食品 梅干し・調味料 ドライフーズ・チョコレート・飴	ビニール袋・ティッシュ ろうそく・マッチ・ライター 洗面用具・生理用品 大人用紙おむつ・携帯用トイレ 粉ミルク・ほ乳びん・紙おむつ メカ 携帯電話充電器(電池式) 雨具・軍手 ヘルメット・帽子・マスク ラップフィルム(お皿に敷くと洗う必要がない) 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水) 各種アウトドア用品
飲料水	冬の備え	
ペットボトルや貯水した給水用ポリタンク (1人1日3リットル×3日分)	ポータブルストーブ(電池式) 寝袋 アルミシート 使い捨てカイロ	

災害への備え～日常生活で消費しながら備蓄する～

災害に備え、食料等を備蓄する必要性を感じる方は少なくありませんが、数量の管理や消費期限の確認などを考えると、実際に備蓄を継続するのはなかなか難しいものです。しかし、普段から利用しているカップ麺やレトルト食品等を少し多めに購入し、日常生活で消費しながら備蓄する「ローリングストック法」であれば、いざという時にも日常生活に近い過ごし方ができます。



風水害

風水害の強さ

雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
(1時間に10～20mmの雨)	(1時間に20～30mmの雨)	(1時間に30～50mmの雨)	(1時間に50～80mmの雨)	(1時間に80mm以上の雨)
ザーザーと降る雨。地面からの跳ね返りで足元が濡れ、雨の音で話し声がよく聞か取れなくなります。	どしゃ降り。雨、傘をさしても濡れ、車を運転する際にワイパーを早くも見づらくなります。	バケツをひっくり返したように降る雨。道路が川のようにになります。	滝のように降る雨。水しぶきがあたり一面が白っぽくなり、マンホールから水が噴出することもあります。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖感を感じる雨です。大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
平均風速(10～15m/s)	平均風速(15～20m/s)	平均風速(20～25m/s)	平均風速(25～30m/s)
風に向かって歩にくらなり、転倒する人が出たりビニールハウスが壊れはじめたりします。	風に向かって歩にくらなり、転倒する人が出たりビニールハウスが壊れはじめたりします。	しっかりと体勢を確保しないと転倒します。金属製のシャッターが破損したり、風で飛ばされたもので窓ガラスが割れたりします。	立っていられなくなり、屋外での行動は危険です。ブロック塀が壊れたり、取付けの不完全な屋外装材がはがれ飛ぶ恐れがあります。

洪水についての基礎知識

外水はらんらん	内水はらんらん
1 大雨や雪解けによって、川の水量が増え、水かさが増え始めます。	1 街などに降った雨は、側溝・雨水管を通過して川に排水されます。
2 堤防がいっばいまで水が増えると、土でできた堤防に圧力がかり始めます。	2 大雨が降ると、川の水位が上がります。排水されずあふれてしまいます。
3 水圧に堤防が耐えられなくなると、一部が崩れ始めます。	
4 堤防の崩れた場所を通過して勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。	

地震

地震発生時の行動

地震の揺れを感じたら、どんな場所でも「あわてず、まず身を守る」ことが大切です。



備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。

懐中電灯と足元灯とを兼ね、停電や地震が起きた時に自動的に点灯するタイプが有効です。足元灯の設置が難しい階段などには、夜光テープが効果的です。

備え② 災害情報を確保するためには

インターネットや携帯電話などを利用できないおそれがあり、情報を得ることが困難になります。防災無線の乾電池の残量も確認しておきましょう。

ラジオや予備の電池を常備しておきましょう。

停電時、屋内で救助を待つ場合や屋内での避難生活に備えて家庭用医療機器等については必要な予備バッテリーを備え、停電時の電源の切り替え手順などを確認しておくことも必要です。

雪害

暴風雪への備え

大雪や猛吹雪の際には、視界不良などによる自動車の多重衝突や、深い雪による立ち往生などが発生しやすくなります。気象情報をチェックし、雪に伴う警報や注意報が発表されたときは、外出を控えるようにしましょう。

また暴風雪などにより電線が切れ、突然停電になることがあります。暴風雪時に停電が発生した場合、日頃から事前の備えがあれば安心です。非常用電源の確保や備蓄、防寒対策など停電に備えておきましょう。

大雪注意報	大雪警報	風雪注意報	暴風雪警報
30cm/12hの降雪	50cm/12hの降雪	10m/s(雪による視程障害を伴う)	18m/s(雪による視程障害を伴う)

暴風雪発生時の行動とポイント

家の中にいるとき	歩行中や運転中のとき	停電になったとき
FF式暖房機などの給排気口が吹き溜まりでふさがれると一酸化炭素中毒を起こす可能性があるため、近隣の商店やコンビニ、人家などの安全な場所へ避難し、天候の回復を待ちましょう。気象情報や道路情報も確認しましょう。暴風による飛来物にも注意が必要です。	視界不良(ホワイトアウト)により、方向感覚がなくなり、自分の位置が分からなくなることがあるため、近隣の商店やコンビニ、人家などの安全な場所へ避難し、天候の回復を待ちましょう。気象情報や道路情報も確認しましょう。暴風による飛来物にも注意が必要です。	停電時は暖房がつかえなくなるため、電気がなくても使えるポータブル灯油ストーブや毛布、カイロなどを活用し防寒対策を行いましょう。また、いきなり電気が消えるため自動で点灯する足元灯などを備えておきましょう。

車内で救助を待つ場合の注意点

原則エンジン停止! エンジンをつける場合は排気管出口をこまめに除雪!

- 防寒着や毛布で体温の低下を防ぎ、原則エンジンは停止する。
- 車が雪に深く埋もれるほど、一酸化炭素中毒の危険性は高まるので注意する。
- 止むを得ずエンジンをかける場合は、排気管出口が埋まっていないか定期的に確認する。
- 窓を開けていても換気は不十分な場合があるので、安心しない。



地震

揺れの強さ

揺れの強さは震度で表されます。各震度の強さを知り、地震が起きたときの対処法を想定しましょう。

緊急地震速報(予報)	緊急地震速報(警報)
震度3	震度4
震度5弱	震度5強

緊急地震速報(特別警報)		
震度6弱	震度6強	震度7
 立っていることが困難になる	 這わないと動けない	 動けず、飛ばされることもある

家屋・室内の安全対策

ふだんからイメージして工夫することで、地震が起きた時に被害を少なくすることができます。家の中の家具やガラスなど、地震に対する安全性をチェックし、補強や移動を行っておきましょう。

家の耐震化	プロパンガスや灯油タンクの固定	家具・家電の転倒防止対策
耐震診断をし、必要があれば耐震化を行う。	転倒等による容器流出や衝撃による損傷を防止するため、鎮やベントなどの固定金具を使用し、転倒防止を行う。	背の高い家具はL字金具や支え棒で固定し、台に固定した家電は粘着マットやストッパー式の器具などで固定します。
壁や塀の点検強化	避難経路の確保	家具配置の見直し
ひび割れ・破損の有無を点検し、補強する。	安全に避難できるように、玄関や廊下などには家具や荷物は置かない。	倒れても安全なように、向きと配置を確認する。